

群馬県立近代美術館 企画展

アートのための場所づくり

1970年代から90年代の群馬におけるアートスペース

この展覧会では、県内5つのアートスペースをとりあげます。
新たな創造を生み出す場としての各スペースの歴史とアートシーンに果たした役割を検証します。

- | | | |
|---|-------------|----------|
| 〈 煥乎堂ギャラリー 〉 | [1954-2005] | 前橋 |
| 20世紀後半を通して多様な展覧会やイベントを開催し、作家や文化人が分野を超えて集う場となった。 | | |
| 〈 ぐんまアートセンター 〉 | [1974-1980] | 前橋 |
| 作家が自由に使用できるスペースとして、参加作家の会費により運営された。 | | |
| 〈 コンセプトスペース 〉 | [1982-] | 渋川 |
| 生活と美術を同じ目線でとらえようと、長屋を会場として現在も福田篤夫が企画活動を続ける。 | | |
| 〈 アートハウス 〉 | [1987-2002] | 沼田／高崎／前橋 |
| 場所と運営メンバーを更新しながら展覧会・イベントを企画・実施した。 | | |
| 〈 北関東造形美術館 〉 | [1992-2001] | 前橋 |
| 白川昌生らによる「場所・群馬」の活動拠点になるとともに積極的に海外作家を招聘した。 | | |

会 期 令和5年1月21日（土）～4月9日（日）

会 場 群馬県立近代美術館 展示室1、ギャラリー

開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日 月曜日

観 覧 料 一般700（560）円 大高生350（280）円
※（ ）内は20名以上の団体割引料金
※中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方と
その介護者1名は無料

主 催 群馬県立近代美術館

今回のトピックス

- 1 5つのアートスペースの活動の全貌を紹介
- 2 記録写真や展覧会案内状など豊富な資料を展示
- 3 当時発表された作品により、各時代の表現の特徴を浮き彫りに
- 4 20世紀後半から現代につながる県内の美術動向を紹介

問い合わせ先

群馬県立近代美術館
〒370-1293 群馬県高崎市綿貫町 992-1
TEL.027-346-5560
FAX.027-346-4064



県立近代美術館 HP
(<https://mmag.pref.gunma.jp/>)



高田博厚《美しきエミーII》1963年
群馬県立近代美術館蔵



榎倉康二《干渉》1990年
個人蔵



白川昌生《赤一彫刻》1987年
群馬県立近代美術館蔵

「あなただけ」高橋元宮

高橋元宮は、1970年代後半から1990年代前半にかけて、群馬県に拠点を置き、独自の芸術活動を展開した。その活動は、個人のアートスペースの創設と、それを通じた芸術家同士の交流、そして地域社会との関わりを特徴としていた。

高橋元宮・高田博厚
二人展
会期 1979-4.25-7.25(会期)



群馬県立近代美術館
〒370-8570 群馬県高崎市高橋町1-1-1
TEL 0276-22-1111

展期・会場
1979年4月25日 - 7月25日



YOSHIDA HIROSHI



Making Space for Art Activities:
Art Spaces in Gunma from 1970's to 1990's

アートのための場所づくり

一九七〇年代から九〇年代の群馬におけるアートスペース

2023年
1月21日[土] - 4月9日[日]

休館日：月・火・水曜日
開館時間：午前9時30分 - 午後5時（入館受付は19:00まで）
会場：展示室1、4-2F
観覧料：一般700円、高校生350円、中学生200円
〒370-8570 群馬県高崎市高橋町1-1-1
TEL 0276-22-1111

SHIMAZU MUSEUM OF MODERN ART
SHIMAZU MUSEUM OF MODERN ART



SHIMAZU MUSEUM OF MODERN ART



SHIMAZU MUSEUM OF MODERN ART



北関東造形美術館



群馬県立近代美術館
THE MUSEUM OF MODERN ART, GUNMA



1: 複合壁面(千澤) 1990年、アクリル塗料・カーペット、漆画、個人蔵「コンセプトスペースでの展示風景」 | 2: 吉田雄次「Nature's Engineering No.443」1996年、アクリル・和紙、アルミ彫立、作家蔵「ノイエス朝日での展示風景」 | 3: 白川昌生(赤一彫刻) 1987年、オイルパステル、鉛筆・紙、群馬県立近代美術館蔵 | 4: 高田博厚「美しきエミー」 1983年、セメント、着色、群馬県立近代美術館蔵 | 5: 河内伸紀「(無題)」1977年、油彩・カンヴァス、作家蔵
 [資料] A: 「第1回一元会展」パンフレット、煥乎堂、1971年 | B: 「アートハウスの10年」展リーフレット、アートハウス、1998年 | C: 「第2回場所・群馬」展案内ハガキ、北関東造形美術館、1995年 | D: 「開館夢の16番のはなの詩」による観覧録「金子亮彦セラグラフィ展」案内状、ぐんまアートセンター、1974年 | E: 「しぶかわ野外美術館」チラシ、コンセプトスペース、1983年

関連イベント

担当学芸員による連続講座		
1	煥乎堂ギャラリー	1月29日[日]
2	ぐんまアートセンター	2月11日[土・祝]
3	コンセプトスペース	2月26日[日]
4	アートハウス	3月26日[日]
5	北関東造形美術館	4月9日[日]

時間：14:00～15:00 | 会場：当館2階 講堂 | 定員：100名(先着順) | 聴講無料・申込不要

● 新型コロナウイルスの感染状況等により開催を中止または内容を変更する場合があります。
 最新情報は当館ホームページでご確認ください。お問い合わせください。

明治初期に創業した書店、煥乎堂は、前橋の店舗内で古くから美術展などを開催し、1960年代後半に白井晟一設計の新店舗にギャラリー専用スペースが設けられると、年間を通してさらに多彩な展示を行うようになります。そこでは群馬県関係作家を中心に広く国内外の美術が紹介され、特に創業家の高橋元吉と縁の深い高田博厚を中心とした一元会展や県関係作家をセレクトした煥乎堂美術展といったアニュアル展は、その活動の特徴づけるものとなっていました。

20世紀後半を通して作家や文化人が分野を超えて集い交流する場となった〈煥乎堂ギャラリー〉のほかにも、群馬県内にはこれまで様々な“アートのための場所”がつくられてきました。1970年代の〈ぐんまアートセンター〉、80年代から現在も活動を続ける〈コンセプトスペース〉、80年代から2000年頃まで活動した〈アートハウス〉は、すべて作家主体で運営され、地域の作家たちに発表の場を提供するだけでなく、国内外の同時代美術を紹介する役割を果たしてきました。さらに90年代、白川昌生らによる「場所・群馬」の活動拠点になると同時に積極的に海外作家を招聘した〈北関東造形美術館〉は、専門学校の付属施設としての役割を超えた独自の活動を展開しました。この展覧会では、〈煥乎堂ギャラリー〉を中心に1970年代から90年代に群馬県内で活動した主なアートスペースの歴史を振り返り、多様な人々が集い、新たな創造を生み出す場となったそれぞれのスペースの特質や県内アートシーンに果たした役割を検証します。



交通案内

電車・バス JR高崎線・湘南新幹線ライン・上野東京ラインまたは上越・北陸新幹線で高崎駅下車(新幹線は東京駅より約60分)。JR高崎駅東口より、市内循環バスぐるりん「群馬の森線」9系統(約38分)、10系統(約26分)、または「常線線」15系統(約25分)で、いずれも「群馬の森」下車(200円)。
タクシー JR高崎駅東口より約20分、JR新町駅より約10分。
車 環状自動車道の「高崎玉村スマートI.C.」(ETCのみ)より、国道354号を高崎方面に向かい、国道13号を左折し約8分。上信越自動車道の「藤岡I.C.」高崎方面出口より出て、国道13号を前橋方面に向かい約10分。北関東自動車道の「前橋南I.C.」より、国道13号に出て藤岡方面に向かい約15分。県立公園「アミ・ディー・エー群馬の森」大駐車場をご利用ください(無料)。

次回展覧会予告

杉浦非水 時代をひらくデザイン
 2023年4月22日[土]～6月18日[日]

群馬県立館林美術館のご案内

山中現 描かれた詩
 2023年1月28日[土]～4月2日[日]

群馬県立近代美術館
 THE MUSEUM OF MODERN ART, GUNMA

〒370-1293 高崎市総貫町992-1 | Tel. 027-346-5560 | Fax. 027-346-4064
<https://mmag.pref.gunma.jp>